

平成30年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント

- 平均正答率は、国語Aは全国平均を下回ったが国語Bは全国平均を上回った。

正答率	小学校国語	
	国語A（知識）	国語B（活用）
国東市	70.0	57.0
大分県	72.0	56.0
全国	70.7	54.7

〈領域別正答率〉

分類	領域	国東市	大分県	全国
国語A	話すこと・聞くこと	91.3	91.4	90.8
	書くこと	79.2	74.8	73.8
	読むこと	74.0	74.0	74.0
	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	65.5	68.3	67.0
国語B	話すこと・聞くこと	64.4	65.9	64.6
	書くこと	48.8	47.6	45.6
	読むこと	56.6	53.6	50.8
	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項			

- 国語Aでは「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率が全国平均を上回った。「読むこと」は全国平均と同じであった。
- 国語Bでは、「書くこと」「読むこと」の正答率が全国平均を上回った。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

＜国語A（主として知識）＞

(1) 読むこと (3)

（出題のねらい：目的に応じて必要な情報を捉えることができるかどうかをみる。）

- 【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する。

（国東市 73.4%・全国 73.9%）

- ・解答類型を見ると「こげないようにしたい」という目的と「作り方」に書かれている「強火」「弱火」「火が入り過ぎないように」という火に関する内容とを関係づけて捉えることができなかった児童がいることが考えられる。また「こげないようにしたい」という目的とフライパンのイラストとを結びつけて捉え、文章には着目することができなかった児童がいることも考えられる。
- ・指導にあたっては、目的に応じていろいろな本や文章を分析的に読み、内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えて全体の構成を把握し、自分の考えをまとめたりしながら読むなど、課題を解決するために必要な情報を捉えて読む活動が必要である。目的に応じて、中心となる語や文を捉えて読むことができるようにするためには、学習活動において「目的を明確にし、調べる内容を具体的にすること」「図鑑や事典などの読み方を身につけるようにすること」「他教科などとの関連を図り、国語科で身につけたことを活用できるようにすること」などの工夫が重要である。

(2) 国語の特質に関する事項について (5 7)

(出題のねらい：文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができるかどうかをみる。)

- 【春休みの出来事の一部】の中で点線部と実線部のつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す。 5

(国東市 30.1%・全国 35.5%)

- ・解答類型を見ると、主語と述語の関係を捉えることができず、「反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。」の文を主語と述語のつながり合っていないものとして捉えることができなかつた児童がいることが考えられる。また、つながりが合っていないものとして捉えることができても、主語と述語の関係を踏まえて適切に書き直すことができなかつた児童がいることも考えられる。
- ・指導にあたっては、表現する時だけではなく、文章を読む時にも主語と述語の関係を強く意識できるようにすることが大切である。また、書くことの学習とも関連を図り、児童が自分で書いた文や文章を、主語と述語との関係に注意しながら丁寧に読み返していく習慣をつけることも大切である。

(出題のねらい：相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる。)

- 【話を聞いている様子の一部】の空欄ア・イに入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する。 7

(国東市 54.3%・全国 56.0%)

- ・高野さんが自分の母から聞いたことについて池田さんに質問するという状況において、身内に対して尊敬語を用いることが適切ではないと捉えることができなかつた児童がいたと考えられる。
- ・敬語を適切に使うことができるようにするためには、様々な場の状況で敬語を使うことに慣れることが重要である。具体的には、地域の人や保護者などに関わる学校行事などにおいて、話をしたり、案内の手紙を書いたりすることが考えられる。その際に、相手と自分との関係を意識しながら敬語を使うことに慣れるように指導することが大切である。また、自分や身内に関わる行動などについては尊敬語を用いることが適切ではないというような、公の場における言葉の使い方に対する感覚を養うことも大切である。

<国語B (主として活用)>

(1) 話すこと・聞くこと (1 三)

(出題のねらい：話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかどうかをみる。)

- これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ自分の考えを書く。

(国東市 31.8%・全国 33.8%)

- ・解答類型を見ると、「北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げる」「取り上げた意見に対してどう考えるのか」「これから言葉をどのように使っていきたいか」の条件を全て満たして解答できなかつた児童がいることが考えられる。
- ・指導にあたっては、話し合い活動の場を多く経験することに加えて、話し合い活動を振り返る学習も重要である。また、計画的に話し合うためには、司会者、提案者、参加者それぞれの役割を捉え、話し合いの目的に応じた進行や互いの発言の意図を理解することの大切さに気づくことも重要である。相手の意見を踏まえて自分の考えをまとめる指導事例については『平成 30 年度【小学校】授業アイデア例』を参考にするとよい。

(2) 書くこと (2 二)

(出題のねらい：目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかをみる。)

- 【おすすめする文章】の空欄部分に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く。

(国東市 15.6%・全国 13.5%)

- ・解答類型を見ると、児童は【紹介する文章】から「「かみかみあえ」は、するめが入っていて、よくかんで食べるこんだて」であることを取り上げて書くことはできているが、そのことと関係付けて、【保健室

の先生の話から分かったこと】から「だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つ」ことについて取り上げて詳しく書くことができなかつたと考えられる。また、むし歯を防ぐ効果に着目して書くことはできているが、【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から、適切な内容を取り上げて書くことができなかつた児童がいることも考えられる。

- ・本問では、給食の献立を取り上げ、各家庭でメニューの一つに加えてもらうために推薦する文章(推薦文)を書く場面を設定している。指導にあたっては、目的に応じて推薦する事物のよさを捉え、推薦理由を明確にして書かせることが大切である。そのためには、構成を工夫したり、他のものと比較して適切な内容を取り上げ、詳しく書いたりすることなどが考えられる。

3 指導の改善のポイント

(1) 授業改善の方向性

①適切な言語活動とその充実

ア. 付きたい力をつけるにふさわしい言語活動であるか

- ・単元を構想する際には、付きたい力と言語活動との領域のミスマッチはないか、よく吟味する必要がある。また、主たる学習活動の設定時間数は十分であるかも併せて考えておきたい。
- ・言語活動を設定した後、課題解決のための手法は適切であるかを考えていく。場合によっては、児童の学習状況(付きたい力が付いているのか等)を把握しながら、弾力的に修正していくことも大切である。
- ・既習事項(または知識・技能)を活用する言語活動であるか、また知識・技能の確実な定着を図っているか留意する必要がある。

イ. 多様な図書資料等の有効な活用を行っているか

- ・目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等(書籍、新聞、その他のメディアからの情報)を用いることが必要である。多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分を詳細に分析する読みの指導が可能となる。また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことの指導にあたる必要がある。

質問紙 「学校の授業時間以外に普段(月から金)1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」

(単位は%)

	2時間以上	1時間以上2時間より少ない	30分以上1時間より少ない	10分以上30分より少ない	10分より少ない	全くしない
全国	7.8%	11.5%	21.8%	25.1%	14.9%	18.7%
大分県	7.8%	11.8%	21.5%	25.1%	15.1%	18.5%
国東市	5.2%	9.8%	22.0%	23.1%	15.6%	24.3%

- ・そのためにも「不読者」を少なくする取り組みが必要である。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、読書によって豊かな語彙形成につながったり、自分を高めたりできるという視点からも、引き続き読書指導の在り方を見直す必要がある。

ウ. 児童の興味関心を喚起する言語活動であるか

- ・興味関心を喚起する言語活動を行えば、国語科の学習が「好き」という気持ちが強くなり、学びに向かう力につながる。

エ. 発表や交流活動を設定した言語活動であるか

- ・本当に話し合いが必要なのか、必要であれば、どのような形式の話し合いが適切であるのかを吟味した上で行うことが大切である。また、ペア学習やグループ学習のみに終わらないために、児童自身に気付かせることと教師が教えるべきことの整理をしておく必要がある。
- ・話し合う手段をとる際には、「何のために」「何の力を高めるために」行うのかということ、児童自身にも自覚させるように心がけたい。
- ・発表の際、ただ原稿を読み上げるようなものになっていないか、ということも重要な指導のポイントである。例えば、メモをもとに発表する、ということも活用力を高める上で非常に重要である。

オ. 参考資料を活用した授業実践を行う

○全国学力・学習状況調査の調査問題

○「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」

<http://www.nier.go.jp/jugyourei/>

○「小学校国語科映像指導資料～言語活動の充実を図った『読むこと』の授業づくり～」

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

○「平成28年度『小学校学力向上対策支援事業』個に応じた指導の手引き小学校国語科・算数科編」

②主体的な学びを促す「めあて」等の設定と指導に生かすことができる「より具体的な評価基準」の設定

・適切な「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定があるか、また、国語の学習として適切な「振り返り」となっているか、以下の資料を参考にして設定するとよい。

「主体的な学びを促す『めあて』『課題』『まとめ』『振り返り』の設定例」

<https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/2001425.html>

「主体的・対話的で深い学びを実現するための単元（題材、主題）計画例」

<http://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/2001723.html>

・指導事項・指導領域・評価の焦点化を行う。

・単元の評価基準→指導過程の評価基準→本時の評価基準という道筋で整合性をもった、より具体的な評価基準B（おおむね満足できる状況）を設定し、適切な評価の場面や方法を考える。

・具体的な評価基準から本時のめあてを設定し、評価基準に基づき「C努力を要する状況」の児童を見極め「Bおおむね満足できる」状況になるよう効果的な支援を行うことが必要である。

(3) その他、国語科授業で取り組むこと

①学習用語の確実な理解

・必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。そのために、小学校で使用する教科書に掲載されている学習用語はその学年で確実に理解させることが大切である。既習の用語は授業で使わせ、指導者も曖昧な言葉を使わないようにしなければならない。

②言語活動の成果物の掲示や展示

・作成したものを互いに見ることで、児童の励みになるとともに、ものの見方や考え方が広がる契機にもなる。また、言語活動に関連する資料の紹介も学習環境を整える意味で有効である。

③記述する活動の充実

・記述は「書くこと」の指導だけでなく「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域の力を向上させるのに有効である。

・また、条件に即応して記述しなければならない場面を設定することも有効である。時間・字数・文章の形態や種類・文体・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法・構成等、条件を踏まえる必要性のある課題を設定するとよい。

(2) 学校全体で取り組むこと

①漢字や語句、文法、表現技法などの習得

・漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。また、国語科以外の教科の時間に既習の漢字を必ず使用するよう指導することも大切である。

②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用

・様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。学校司書等と連携し、バランスのよい読書指導をすることが重要である。

・学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる。例えば、新聞を児童の見えるところに掲示し、自然と情報が入ってくる環境を作

ることもその第一歩となる。また、国語科だけでなく各教科や領域において、図書館活用の推進をしていきたい。

③全国学力・学習状況調査についての研修や情報共有

- ・全国調査の結果分析を各学校の指導の充実に活かすために、学校全体で情報を共有し、授業改善のベクトルを揃えることが重要である。